



特集

子どもたちを守る。

—— 小児医療の現場から ——

- 医心伝心～医の最前線から～
- ナースフェイス 私の看護、私の思い
- 家庭で役立つ! お薬の知恵袋
- 気軽にお体メンテナンス
早期のチェックで病気にチャック!
- シリーズ 清恵会三宝病院
リハビリテーション退院前訪問
- 学院だより
地域医療の未来を支える若き力
- 清恵会グループ通信
清恵会三宝病院 医療福祉相談室からのご案内

自分の身体や危険についての認識が浅く、時には大変な事態を招いてしまうこともある子どもたち。特に、幼い子どもの変調時には、両親や周囲のサポートが必要で、子どもたちのために、私たちができることは何でしょうか。清恵会病院 小児科の森信若葉医師、東川幸嗣医師の話とともに、小児救急と小児科の現状、同院の取り組みについてレポート致します。



子どもたちを守る。

— 小児医療の現場から —

子どもの病気は突然… 周囲が冷静な対応を

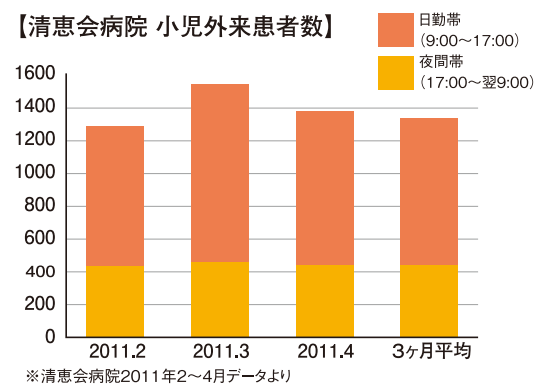
言語能力や表現力が未発達段階にある乳幼児の場合は、おう吐や発熱といった症状が現れて初めて、身体の不調が発覚することが多いものです。中には、急を要する症状が突然、現れることもありま。そんな時に頼りになるのは、地域の救急医療体制です。森信若葉医師は、「近年、救急車で搬送される小児患者数は、増えているように感じます」と語ります。

「子どもの病状は急変することがあるので、救急搬送を要することが多々あります。しかし、発熱にびっくりして救急車を呼ぶ場合や、『来院するための交通手段がなかった』という例の中にはあるようです」

堺市では、子ども医療費助成制度により、救急車要請の有無に関わらず、堺市内に住所のある中学校卒業までの子どもの医療費に対する助成が行われています。恵まれた医療環境にありますが、一方で救急車の数は限られており、軽症

者の搬送のために別の重症者が待機する可能性もあります。地域の救急体制のためにも、必要な場合にのみ要請するのが望ましいといえるでしょう。

救急車の利用に関わらず、小児救急では、ある特徴があります。清恵会病院の平常時間外の外来患者数は、小児患者が平均的に全患者の約30%を占めています。また診療時間帯を見ると、「清恵会病院小児外来患者数」のグラフに示す通り、小児科の全患者数の



東川幸嗣医師は、「私たち医師はお子さんに変調があれば、すぐに診察に来ていただきたいと考えてい

うち平均約30%が夜間帯に受診していることが分かります。「実際、子どもには夜の急な発熱や腹痛といったことも多いものです。また、親御さんが日中のお仕事を休みできないため、夜のうちに来院せざるを得ないといった社会背景もあるのではないのでしょうか」(森信)

救急診療へ行く前に 知っておいて欲しいこと

特集 **子どもたちを守る。**
— 小児医療の現場から —



ます」と語ります。しかし、どの病院においても、夜間の救急診療は昼間に比べて人員も設備も制限がありません。

「夜間診療では、基本的に1日分の処方を行っています。その理由は、夜間診療はあくまでも救急の診療であり、翌日にかかりつけの医師または当院の外来を受診していただき、引き続き経過を見せたい、ただくことが重要だと考えるからです。ある程度、お子さんの状態を見極めて、受診するタイミングを判断することが大切だと思います」(東川)

では、お子さんの状態を見極める方法はあるのでしょうか。

「清恵会病院 症例別小児救急搬送患者データ」の表にある通り、清恵会病院の小児救急における主な症例は、神経疾患では熱性けいれん(乳幼児にみられる発熱時のけいれん)や無熱性けいれん、てんかん、意識障害などが多く見られます。呼吸器疾患では肺炎や気管支炎、インフルエンザ、消化器疾患では胃腸炎や便秘、その他の症例では誤飲などが挙げられます。

「神経疾患の中で症例数の多い熱性けいれんは、基本的に良性です。

清恵会病院の救急外来は平日午後11時30分まで、日曜日も午前中に小児科の診療を行っています。救急診療は、小児科の医師1名が日替わりで担当しています。

また、堺市東北急病診療センターからの小児救急患者の搬送は、現在、堺市内の医療機関が輪番制で受け入れを行っており、清恵会病院もその協力施設として、当番日には深夜帯もセンターからの紹介患者を受け入れています。

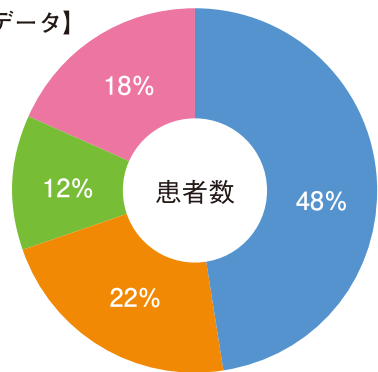
夜間帯に診療が集中する状況などあっても、救急外来の現場では診察の待ち時間が長くなることはありません。その際には、重症患者の治療が遅れてしまうケースも考えられます。それを防ぐために、清恵会病院では、専門的な知識を持った看護師が小児救急患者に対して治療の優先順位を判断するシステム「小児救急トリアージ」を導入しています。

「このシステムにより、緊急度が高いと判断された患者様は、受付の順番に関わらず、優先的に診察を受けていただくことがあります」(森信)

【清恵会病院 症例別小児救急搬送患者データ】

- 神経疾患:熱性けいれん、無熱性けいれん、意識障害など
- 呼吸器疾患:咽頭炎、気管支炎、肺炎、インフルエンザなど
- 消化器疾患:胃腸炎、便秘、腹痛など
- その他:誤飲、熱射病、ぜん息など

※清恵会病院2010年度診療データより



しかし、中には、重症(じゅうせき)※1)したり意識回復が遅れる症例もあるため、すぐに意識が回復しない場合は救急車を要請していただければと思います」(東川)

一方で、腹痛や発熱の場合は原因が分からないため、はた目には判断が難しいようです。そのため、痛みやおう吐、熱の程度と状態の経過を見ながら判断する必要があります。

また、夏場には、病原性大腸菌O157など細菌性の食中毒も増えてきます。食中毒に対しては、「頻回のおう吐、下痢、血便、ぐったりしているなどの症状がある場合は、受診される方が良いでしょう」と東川医師はアドバイスします。

では、誤飲についてはどのような対処法があるのでしょうか。

「誤飲は、飲んだ物によって処置が異なります。誤飲した物と同じ物があれば、それを持ってすぐに来院していただくのが理想です。しかし、中には自宅で様子を見て良いケースもあります。もし誤飲した物について対応が分からない時は、電話で24時間、中毒症状の相談対応をしている日本中毒情報センター(大阪中毒110番072-7272499)に問い合わせることもできます」(森信)

小児は、軽症でも激しく泣きわめたり、重症でも黙っていたりと、症状の見極めは非常に難しいもの

**専門医5名が在籍し、
大学病院とも連携する
清恵会病院の小児科体制**

清恵会病院では、小児科に5名の医師が在籍しています。各医師が、幅広い症例に対応するオールラウンダーであるとともに、それぞれが小児神経や発達障害、アレルギー等の専門家でもあります。

こうしたスタッフ環境を生かして、月曜から土曜の午前中に行う一般診療の他に、午後には、アレルギー外来、神経外来、発達障害外来、予防接種外来、育児健診外来と、専門外来の診療時間を設けています。

「その他の専門的な診療が必要な場合は、他施設とも協力して対応しています。大阪医科大学附属病院とは、スタッフの面でも連携しており、患者様に最善の医療をご提供できるように体制を整えています」(森信)

※1 けいれん重積(けいれんが長く続く、またはけいれんが短い間隔で繰り返す、その間の意識回復がない状態)。

緊急時における小児患者の受け入れ体制は、どのようになっているのでしょうか。

**地域のお子さんのために
堺市の小児救急を担う**

緊急時における小児患者の受け入れ体制は、どのようになっているのでしょうか。



左から:田中医師、森信医師、東川医師、山本医師

小児科スタッフ

- 森信若葉
清恵会病院 小児科
院長補佐(専門・アレルギー)
- 東川 幸嗣
清恵会病院 小児科
部長(専門・小児神経)
- 山本 真司
清恵会病院 小児科
医長(専門・アレルギー)
- 田中 啓子
清恵会病院 小児科
(専門・発達障害)
- 堀内 剛
清恵会病院 小児科
(大学院研修中)

Nurse Face ナース・フェイス — 私の看護、私の思い —

MY テーマ 対話を大切にした看護を実践する

脳外科病棟で働く私の仕事

西4階病棟は、脳疾患の患者様が多く入院されており、私は患者様の状態を把握するためのバイタルサインの測定や点滴、清潔さを維持するためのケアなどを行っています。開眼も見られなかった患者様が、少しずつ意思疎通を図ることができるようになっていく姿を見ると、とてもうれしい気持ちになります。患者様ができることが増えるたびに、病棟の看護師みんなで喜び合っています。

看護に対する私の思い

看護師としては、採血や清潔に関するケアには自信がありますが、まだまだ与えられた仕事を行っている段階です。手術や入院が重なると一日中、走り回っているのが、仕事は大変です。ただ、私は患者様の話を聞くことが好きで、心を開いてもらえた瞬間は特にうれしく感じます。今後も患者様と関わりながら知識を深め、常にベストの看護や援助を考え、実践していきたいと思っています。



西4F病棟 塚田 有紀さん

Profile

2010年4月入職。「私はおっちょこちょいな所があるので、仕事中は、一つひとつの業務を確認しながら行うように心がけています」。

MY テーマ 患者様の不安を軽減し、心の支えになる



西2F病棟 海老原 真衣さん

Profile

2010年4月入職。「年代問わず、人とコミュニケーションを取るのには得意。忙しい時でも、普段と変わらない対応を心がけています」。

消化器センターで働く私の仕事

西2階は消化器センターで、私は患者様の状態観察や検査の準備、点滴の更新などを担当しています。内科から外科の消化器疾患の方をみており、また手術も多く、業務に追われる毎日です。でも、患者様から「大変だね」「今日は疲れていない?」と声をいただくと私も頑張れます。また、退院される際に、「ありがとうございました」「ここで良かった」とおっしゃっていただけるのが、看護のやりがいを感じる瞬間です。

看護に対する私の思い

病棟には、ターミナル期の方をはじめ、検査や手術に対する不安を抱えている患者様もたくさんおられます。そうした方に対して、看護の他に私ができることは、患者様の気持ちや家族のことなどさまざまな話を傾聴することだと考えています。私は看護師2年目で、まだ経験は浅いのが現状です。でも、患者様の不安を少しでも軽減し、心の支えになれる。そんな看護師になりたいと思っています。



清恵会病院 形成外科部長 高橋 猛

Profile

1974年生まれ。'00年に大阪医科大学を卒業。'03年に大阪医科大学大学院に入学し、腫瘍免疫分野の学位を取得する。大阪医科大学の形成外科で助教と病棟医長を務めた後に、三島救命救急センターで救急医療を経験。'09年に清恵会病院へ入職する。'10年より現職を務める。

医心伝心 #05

～医の最前線から～

患者様のより良い回復を目指して、
相手の気持ちに配慮しながら
形成外科の治療の幅を広げたい。

形成外科部長として、 症例全般を幅広く診療

形成外科は、皮膚などの軟部組織や骨組織を含めた顔面及び全身を対象とする診療科で、主に顔面の骨折や外傷による傷・変形、各種腫瘍、熱傷およびケロイド等の手術や診療を行っています。また、当院のフットケア外来では、メ周囲の炎症、閉塞性動脈硬化症や糖尿病による難治性潰瘍に対する加療、褥瘡(じよくそう)への外科的加療も行っています。治療面では、昨年度に厚生労働省から認可された持続吸引療法を取り入れており、難治性皮膚潰瘍や組織欠損で積極的に行っている。

ます。また今年度から形成外科外来で新調した電気焼しやく器のおかげで、皮膚腫瘍の除去や巻きツメの治療が簡単にできるようになりました。

最近、形成外科医としてよく患者様に話しているのは、すり傷などの外傷の豆知識です。昔前は、患部を消毒後、乾かして治す方法が一般的でしたが、消毒薬は健康な細胞も死滅させますし、また乾燥状態も再生する細胞がうまく活動しません。そのため、患部を水で洗い流した後は、湿潤状態で治すことをお勧めしています。

私は、皮膚腫瘍関連で学位を取得しましたが、臨床現場では専門にとらわれず、形成外科全般を診療しています。当院はフットケア外来があるように閉塞性動脈硬化症や糖尿病関連の患者様が多く、臨床現場ではこうした症例を中心に診ています。また仕事中は、人として当然ですが相手の目を見て話すこと、患者様には専門用語を避け、分かりやすい説明をするように心がけています。

ポジティブ思考で、 子育ても余暇も楽しむ

私は仲の良い友人には楽天才として通っていますが、生活面ではストレスをためないように心がけてい



ます。休日は、他職種の人々との集まりで5人制ミニサッカーのフットサルをして汗を流していますし、お酒もたしなみます。また昨年10月に第子となる娘が誕生したので、家では育児も手伝っています。

子育ては大変ですが、お風呂に入れるなどの世話をしていると、リラックスしますね。また、子どもを持つ患者様の気持ちがいり深く理解できたり、子どもへの対応も上手になったりと、医師としての幅も広がったように思います。やはり、患者様に治療を行い、「ありがとう」と言ってもらえることが一番のやりがいです。そのために積極的に学会や勉強会等へ参加し、新たな専門分野の知見も深めたいと考えています。



専門スタッフが自宅を訪ねて退院後の生活について助言

清恵会三宝病院では、病状や身体機能の障害により、長期にわたって入院される患者様がおります。長期入院された患者様は、医療施設の整った病院とは違うご自宅での生活に不安を抱えておられます。退院前訪問とは、こうした入院患者様の退院に先立ちリハビリスタッフや看護師が患者様のご自宅を訪問し、病状や家屋の構造、介護能力等を考慮しながら、患者様ご自身やご家族、退院後に看護・介護に当たる方に対して、退院後の生活に必要なと考えられる動作を評価し、具体的な指導をさせていただき取り組みます。

当院では、退院が最終目標ではなく、『退院されてからの生活』を重要と考えており、退院後も不安なく生活を過ごしていただくこ

シリーズ05
清恵会三寶病院

リハビリテーション退院前訪問



とを目標としています。そのため、入院患者様に対して、退院前訪問を積極的に実施しています。

退院前訪問を行うことの利点は、実際にご自宅での生活動作を評価できることにあります。そもそも当院では、入院中から今後の自宅生活を考え、ご本人やご家族から病前の生活様式や家屋環境の話伺い、実際の生活を想定した練習を行っております。しかし、話だけでは具体的なイメージがつかみにくく、不十分なことがあります。そこで、実際に自宅へ訪問させていただくことで、より細かい部分の動作の評価が行うことが可能となります。こうした実生活に即した練習を行うことにより、患者様の退院後の生活に対する自信や安心にもつながっています。

当院の退院前訪問の特徴は、



退院後の生活に関わってくる、ケアマネージャーや介護スタッフの立ち会いです。これらのスタッフが同行することで、当院の看護師やリハビリスタッフから病院での動作方法や状況を直接伝えることができます。こうしたスタッフの密接な情報交換と連携により、さらに充実した介護サポートを行うことが可能となります。

もう一つの特徴は、病棟看護師の参加が挙げられます。病棟での生活をよく知る看護師が同行することにより、リハビリスタッフによる動作の確認だけでなく、排泄や入浴の介護方法など、看護の視点から、より細かい情報提供と提案を行っています。



家庭で役立つ！
お薬の知恵袋
血圧は高くないのに
血圧の薬を処方されたのですが？

薬局で「血圧を下げるお薬です」と説明されたものの、患者様にとっては「それほど血圧は高くないんだけど…」という疑問を持たれるために生じるご質問です。そもそも薬には、さまざまな作用があり、例えば不整脈の予防のために血圧を下げる薬を使用するケースなど、専門的な使い方をすることがあります。症状と薬効をきちんと考えた上で処方している薬なので、安心して服用してください。

こうしたケースで処方される薬は、主に以下の2つが挙げられます。

アーチスト

血圧を下げるお薬です。不整脈の治療薬でもあります。慢性心不全に対して、専門医が使用することがあります。

タナトリル

血圧を下げる効果があります。それ以外にも、誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん・食べ物や唾液が肺に入って起こる肺炎)を予防する作用があるので、その目的で使われるケースがあります。

早期のチェックで病気にチェック!

気軽にお体メンテナンス
第五回 肺機能検査



肺の容積と喚起機能のレベルを測定

何を調べる検査ですか？

肺機能検査とは、肺の容積や、空気を出し入れする換気機能のレベルを調べる検査です。

息切れする、呼吸が苦しい、せきが出る、たんが出るなど、肺の病気が考えられる症状の方に行います。また気管支ぜん息の診断や、手術の際の麻酔方法を選択するためにも行います。

検査の方法は？

検査では、スパイロメーターという計測器を使って肺機能を測定します。実際の方法は、まず鼻をノーズクリップでつまんで呼吸管を接続した紙製のマウスピースを口にくわえます。その状態で静かな呼吸を数回繰り返した後、思い切り息を吸ったり吐き出したり、一気に強く

検査にあたっての注意点は？

痛みなどはありません。しかし患者様の努力が検査結果を大きく左右するため、思い切った呼吸をしていただく事が重要となります。

また計測前に年齢、性別、身長、体重から予測値を算出しておきます。この予測値に対する実測値との比較を行うことで、肺機能障害(指標)を正常、閉塞性、拘束性、混合性などに分類します。

息を吐き出したりするほか、安静にして普通の呼吸を1分間行ったり、深呼吸を10秒間繰り返したりしながら、実測値を計測・記録します。

検査の所要時間は？

所要時間は、10分〜15分程度終了致します。

清恵会三宝病院 医療福祉相談室からのご案内

慢性期機能病院への 転院をスムーズにサポート

今回は清恵会三宝病院・医療福祉相談員「八亀美和さん」の活動をご紹介します。入退院時の具体的なサポートをご覧ください。

メディカルソーシャルワーカーは「福祉」の職員です。

突然の病気やケガによって、健康な日々には想像しなかった悩み事が発生する場合があります。先生の説明が難しくよく分からない、入院費用が心配、退院後の生活が不安…。そんな時、各種社会保障制度の幅広い知識を持ち、医療スタッフや他の医療機関、市町村とも連携し、患者様とご家族を援助するのが、医療福祉相談室に在籍するメディカルソーシャルワーカー(MSW)の役割です。相談に料金はかかりません。電話でのご相談にも対応しております。

清恵会三宝病院
医療福祉相談室 室長
八亀 美和

Profile
1990年3月、国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院作業療法学科卒業。急性期病院勤務、作業療法士養成校の教員を経て、2004年4月に清恵会の作業療法科へ入職。2010年6月より清恵会三宝病院医療福祉相談室に勤務。



1 急性期病院での状況を確認

急性期病院のMSWや主治医、看護師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士から患者様の病院生活について話を伺います。治療やリハビリの経過、看護処置と病棟生活の内容、保険制度の活用状況など、各専門スタッフから患者様一人ひとりの詳細な情報を収集することで、三宝病院への円滑な転院を目指します。



2 清恵会三宝病院での生活を説明

三宝病院への転院を予定されている患者様のお部屋を訪ねて、急性期病院での生活について、直接、お聞きします。ご希望があれば、三宝病院の設備や病棟の様子、リハビリ内容、リハビリ期間など、写真付きのカタログをご覧いただきながらご説明します。ご訪問することで、安心して転院していただきたいと願っています。



3 転院先の受け入れ体制をチェック

転院前に、転院先である三宝病院回復期リハビリ病棟担当の看護師やリハビリスタッフとのミーティングを行います。この際に急性期病院での患者様のリハビリ経過を伝え、回復期病棟の患者様の退院支援準備状況と照合します。また三宝病院への転院時期を検討すると同時に、転院後に希望されているリハビリ内容も報告します。



4 自宅生活への準備をサポート

リハビリの実施期間には制限が、回復期リハビリ病棟には入院期間の制限があります。そのため、ご入院後、間もない段階で、ご自宅での生活をイメージしながら、「退院する心の準備と退院後の生活環境の準備」を開始していただくこととなります。準備に必要な情報は、しっかりと提供致しますので、ご安心ください。



仲間との親睦を深める
合同レクリエーションを開催

地域医療の未来を支える若き力
学院だより

清恵会医療専門学院
清恵会第二医療専門学院



平成23年5月25日、浜寺公園内の「大阪府立羽衣青少年センター」にて、両学院の看護学科・理学療法士科・放射線技師科の1年生を対象とした3学科合同レクリエーションを開催しました。当レクリエーションは、学生たちの親睦を図ることを目的とした学行事です。
当日は天候にも恵まれ、学生たちはリラックスした雰囲気に参加しました。レクリエーションの冒頭には、学院

長から「学院の勉強が大変でなかなか合同での行事はできませんが、今日は勉強を忘れて楽しんでください」との挨拶が行われました。
バーベキューでは、教員と学生たちが協力して食事を準備。開放的な野外でのバーベキューを楽しみました。食事の後には、体育館で大縄跳び大会を実施し、参加者全員で盛り上がりました。
こうした交流の機会は、同じ清恵会に集う仲間とのきずななど、チーム医療の礎となるコミュニケーション能力の養成につながります。
今後も当行事を開催し、充実した学生生活を提供したいと考えております。



2012年度 入学試験願書受付中!!

平成24年度入学生募集中です。医療法人清恵会の全面バックアップ。安心・充実のカリキュラムで社会に貢献できる医療人を目指してください。

清恵会医療専門学院

第1看護学科 / 第2看護学科 / 准看護学科
堺市北区百舌鳥北町2丁83番
TEL: 072-259-3901

清恵会第二医療専門学院

理学療法士科 / 放射線技師科
堺市堺区向陵西町4丁5番9号
TEL: 072-222-6226

詳しくは
Web&携帯で



<http://gakuin.seikeikai.or.jp>

お問い合わせ

清恵会三宝病院
医療福祉相談室

電話

072-226-8131

9:00~17:30(月~土曜日)

清恵会グループのご紹介

+ 清恵会病院

急性期機能病院

〒590-0024 堺市堺区向陵中町4丁2番10号
TEL.072-251-8199(代)

+ 清恵会三宝病院

複合型慢性期機能病院

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁4番地の1
TEL.072-226-8131(代)

+ 清恵会向陵クリニック

人工腎臓透析センター

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁2番11号
TEL.072-251-8199(代)

+ 清恵会三国丘クリニック

内科・整形外科・形成外科・小児科・リハビリテーション科

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁4番10号
TEL.072-251-8199(代)

+ 清恵会訪問看護ステーション

訪問看護・訪問リハビリテーション

〒590-0024 堺市堺区向陵中町4丁4番4号
TEL.072-257-6074

+ 清恵会医療専門学校

看護師・准看護師養成所

〒591-8031 堺市北区百舌鳥梅北町2丁83番
TEL.072-259-3901

+ 清恵会第二医療専門学校

理学療法士・診療放射線技師養成所

〒590-0026 堺市堺区向陵西町4丁5番9号
TEL.072-222-6226

+ ケアプラス

居宅介護支援・訪問介護・福祉用具貸与

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁6番25号
TEL.072-259-4622

TOPICS!

清恵会三宝病院内に通所リハビリテーション施設が誕生!

清恵会三宝病院内に、通所リハビリテーション施設「さんさんデイケア三宝」が開設されました。退院後も、引き続きリハビリを行うことで皆様のご自宅での生活をサポート致します。

さんさんデイケア三宝の特徴

- 個別対応のリハビリテーションを行います。
- 各種レクリエーションを実施。レクリエーションにもリハビリの要素を取り入れ、楽しみながら訓練に取り組むことができます。
- 管理栄養士が管理している食事を準備致します。
- 入浴サービスも提供。入浴時は介護の専門家が介助致します。



曜日：月～土曜日(祝日を含む) 時間：午前9時～午後4時30分 対象者：要介護度1～5の方

お問い合わせ ●清恵会三宝病院内 さんさんデイケア三宝 TEL.072-225-0066

清恵会グループWebサイトご紹介

清恵会グループWebサイトで「清恵会」の最新情報をご覧いただけます。糖尿病情報コーナーや耳寄り情報など、役立つお話が満載です。

清恵会

検索

<http://www.seikeikai.or.jp>